（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	古民家ゆめの森こども園			
○保護者評価実施期間	2026 年　9月　30日	～	2026年　10月　13　日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	16名	（回答者数）	12名
○従業者評価実施期間	2026年　10月　19日	～	2026年　10月　27日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7名	（回答者数）	7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　11月　16日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども達が自分たちでやってみたいことや経験してみたいことなどを調べたり、職員と一緒に材料を調達したりしてイメージしたものを形にする楽しさを味わわせながら探求心や想像力を養えるようにしています。また農業や手仕事などさまざまな体験を継続してできるようにし、その体験から卒業後の仕事の選択肢や就労への意欲、また生活の自立に繋がるようにしています。	職員主導にならないよう子ども達の話し合いや準備には一歩引いて参加しつつ、トラブルなど必要な場面ですぐに対応できる体制をとっています。また、職員の得意なことを支援の内容に加えたり、農業などでは外部の専門家に来て指導を受けたりし子ども達の活動がより広がる工夫をしています。	作業でできた作品や農作物は保護者や地域の方に来てもらいバザーやマルシェで販売することにより自分たちが作ったものが「収入」になる体験をしたり、米や野菜を日々の食事やクッキングに取り入れることで「食」への関心に繋がったり、卒業後の仕事をより身近に感じてもらえるようにしています。また、販売をする際に言葉遣いや挨拶の丁寧さを伝えたり、お金の受け渡しによる計算なども実体験で学習できるようにしています。
2	職員間の仲が良いことでチームワークが良いことが強みだと考えています。それは孤立せず助けて欲しい時に声を上げやすい環境を築くことができ、職員も子ども達も安心して生活できると思うからです。また、職員間で日頃から支援に関する疑問や悩みはもちろん私生活のことでもお互いに思っていることや考えていることを伝え合える雰囲気作りを心がけています。それが支援の中で相手が困っているタイミングを理解して助けあったり、アイデアを提供しあったりすることができる基本だと思います。	支援前や送迎後に短時間でもその日の子ども達の様子や気になる言動、また保護者からの伝言などをお互いに報告したり、共有したりする時間をつくっています。 職員自身の困りごとも本人の許可を得たうえで責任者と話しをして必要に応じては休暇を取りやすくするなど職場環境の改善にも努力しています。そうすることでワークライフバランスも保て、安定した気持ちで子ども達に向き合うことができると考えています。	関係機関との支援会議に行く前には対象児のことについて確認したり、疑問に思ったりしていることがないか他の職員に聞いてから出かけています。そうすることで児童発達支援管理責任者だけの主観になるなど偏った情報にならないよう気をつけています。
3	スタッフ同士がお互いの得手不得手を理解してカバー合ったり、励ましたりすることで常に気持ちを楽に感じながらイキイキと仕事ができています。その姿を子ども達に見せることで子ども達もお互いに対し優しい気持ちをもつ姿が見られ、保護者との関係性にも繋がっていくと考えています。	職員同士がコミュニケーションをとる機会を多くし、そのなかで自分の得手不得手や仕事上で助けて欲しいことを伝えあい、それぞれが無理なく働くことができるよう手の空いた職員が忙しそうな職員の仕事を手伝うなどの工夫をしています。	支援するなかでわからないことがある時はお互いに聞き合ったり、当事業所の特色である「食育」については事業所の代表や外部講師（ミネラルアドバイザー）から研修を受けながら保護者に伝えるようにしたりしています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	有資格者が少ないため、専門性や専門知識が乏しいと感じています。	経営状況を見ながら職員の募集をしなければいけないので、現在の段階では有資格者を募集、採用することはむずかしいと考えています。	専門知識が必要と感じ得る時は相談支援専門員さんに相談して専門機関につないでいただいたり、職員の知り合いの有資格者の方に相談したりしています。
2	子ども達の要望やりたいことに出来るだけ応じたいと思っても休暇や基本的に人数は足りているものの余裕がなく、職員体制が整わない時があります。	全体に日々の職員に余裕があればよいと思うが、経営状況を鑑みて現在は採用がむずかしいので在籍している職員のなかで更に声がけをしたり、臨機応変に動いたりできる様さらに考えていきたいと思います。	年齢の大きい子を中心に友だちの世話が上手な子どもにリーダーシップをとってもらい、子ども一人ひとりの得意な面をさらに伸ばしつつ子ども同士の関わりの中でお互いを高め合うことができる支援を考えていきたいと思います。
3			